

電子機器開発のプロジェク
ト・メイ（東京・港、白石
二朗社長）は子供見守
り用の携帯端末「こどもニ
」を開発した。ランドセルの
ベルトなどに装着し、撮影
した映像や音声、位置情報
を自動送信する。親は自宅
のパソコンなどから子供の
居場所などを確認できる。
スマートフォン（スマホ）
の技術であるカメラやセン
サー、通信機能などをフル
活用し、登下校時の子供が
事件・事故に巻き込まれる
不安を感じる親の需要に応
えるサービスだ。

テクノ フォーカス

プロジェクト・メイ

子ども見守り用携帯端末「こどもニ」

子どもの周囲の画像や音声を定期的に送信する



周囲の画像 6秒ごと送信

充電時の連続動作時間は約5時間だが、子供の動きがなくなればデータの送信を停止して電力消費を抑える。撮影の待ち受け時間は約24時間。通常時は320×240画素の画像を6秒ごとに撮影して位置情報とともにクラウドに送信、音声データは30秒ごとに送信する。緊急のときは、親が操作して通常の4倍の精度である640×480画素の画像を2秒ごとに送信する。

また、指定の電話番号に電話をかけるように遠隔操作することも可能だ。端末2980円。2年間の利用を前提にする。白石社長は「使いやすい価格にするのに苦労した」という。既存のスマホを改良して使うことで端末コストを抑えた。通信費を抑えるために画像や音声のデータは劣化しない範囲で圧縮して送信している。このため、1カ月のデータ通信量は1ギ（ギは10億）未満という。プロジェクト・メイは、あらゆるモノがネットにつながる「IoT」関連機器の開発に力を入れている。子供用端末だけでなく、女性のストーカー対策用や部屋の遠隔監視用の機器も開発している。

スマホ出荷台数 頭打ち

スマホ技術を活用して、新たな備えからだ。専用端末を新ビジネスを開拓する動きが広がりつつある。調査会社のMM総研によ「IoT」の構築に役立つ機能ると、2012年度以降の国内

市場拡大へ 新分野に応用

年間出荷台数は3000万台前後で頭打ちだ。スマホメーカーも市場拡大には新分野への技術の応用が欠かせなくなっている。子供の見守りなどの潜在需要は高く、スマホ技術を使ったサービス開拓を巡る競争も激しくなりそうだ。（河合基伸）